

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591300060		
法人名	社会福祉法人 同朋福祉会		
事業所名	認知症対応型グループホームゆいしん		
所在地	山口県美祢市大嶺町東分1707-2		
自己評価作成日	令和4年5月20日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和4年6月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では、ご利用者の自立支援(自己決定)を大切にし、ご利用者一人ひとりの心身の状況に応じた個別支援を行っています。職員からの一方的な介護にならないよう、ご利用者ができること、家事(掃除・洗濯量・おぼん拭き等)や作業(新聞折り・部屋の装飾作り等)はご本人が負担にならない範囲でお願いすることでご利用者にとって精神面では生活感や自信に繋がり、身体面では残存機能の維持に繋がるよう支援しています。施設内で特養や小規模多機能等他の事業所と協同で、初釜・夏祭り・敬老会・忘年お楽しみ会等のイベントを行い、他の事業所とも交流できるようにしています。リハビリ体操や歌・ゲーム・散歩等楽しく参加できるよう支援し、ご利用者の様子や状況等を毎月写真入りの手紙にしてご家族に伝えています。ひとつの大きな家族として「優しい心」「温かい心」「ふれあいの心」を大切にご利用者に寄り添い、ゆったりと楽しくともに支えあう関係を築き合いながら、ケアサービスの向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の家族に、毎月1回写真付きのお便りで日ごろの様子を伝えておられ、電話等での連絡も密にとられています。面会が途絶えることがないように、感染状況を見ながら、玄関先や窓越しの面会をしていただき、顔を見てお互いの安心が得られるように支援しておられます。事業所内での季節の行事や、お誕生日会、様々なレクリエーション活動、畑づくりなど、気分転換や楽しみごとの充実に取り組みられ、利用者の意欲の向上や生活機能維持を図っておられます。転倒を防ぐための家具の配置の工夫や、利用者同士の人間関係に配慮した座席の変更など、職員は利用者の心身の状況に細やかに配慮され、安定した生活ができるよう支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と運営方針を事業所内に掲示し、スタッフ全員が理念を共有しながら利用者のケアを行っている。毎日朝礼において、職員全員で「基本理念」等声を出して読みあっている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、法人の理念とともに事業所内に掲示して、毎日の朝礼で唱和している。利用者に「優しい心、ふれあう心、温かい心」を大切に、声かけをしながら支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流というのは難しいが、散歩やドライブ等、そこで出会った地域の方々と感染予防に務めながら交流を図っている。	法人行事(ともの園夏祭り、ともの園フェスタ)や、拠点施設の行事(唯心花祭り、納涼祭、敬老祝賀会、消防訓練など)、事業所での行事などに参加した地域の人やボランティアや、併設施設(特別養護老人ホーム、小規模多機能事業所)の利用者、家族と交流していたが、コロナ禍により、ボランティアや幼稚園児の来訪、地域の人との交流を中止している。近隣の散歩時には、地域の人と挨拶を交わして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他の事業所が行う介護教室の拠点として場所を提供している。運営推進会議はご利用者やご家族、地域の人々等で行い、認知症の理解や支援の方法等、地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は自分達の実績を改めて見つめる機会としている。自己評価によって気づいた点や反省点については、今後改善していけるよう話し合い対応に務めている。	管理者が評価の意義について説明し、全職員に評価のための書類を配付して、記入後に職員会議で話し合い、管理者がまとめている。職員は自己評価をケアのふり返りにつなげ、利用者の安全の確保や事故防止の観点から、家具等の配置の検討をするなど、具体的な改善の取り組みに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話し合ったことや参加された方々から出た意見を参考にし、サービスの向上に繋がるように務めている。	会議は年6回開催し、内3回は感染防止のため書面開催としている。利用者の状況や活動状況、ヒヤリハットの状況、地域との交流状況、活動予定などを報告し、意見や助言を受けている。事故・ヒヤリハット報告や火災予防、事故防止などについて意見やアドバイスがあり、サービスの向上に繋げるように努めている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で情報交換や助言等を頂きながら協力関係を築いている。わからないところは市に聞きアドバイスを受けている。	市担当者とは、運営推進会議で意見や助言を受ける他、電話やFAX等で確認したり、直接出向いて協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議などで、利用者の入居状況やケアサービスについて相談するなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研究にて、定期的に身体拘束について理解を深めている。当施設は常に玄関は解放しており、ご利用者が自由に出入りできるようにしている。	職員は拠点事業所の研修で年4回、身体拘束や虐待防止について学び、職員は理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束適正化委員会を拠点事業所が合同で、月1回実施し、事例検討や研修内容の検討をしている。職員はスピーチロックのない言葉かけに配慮し、気になるところは職員同士で注意しあったり、管理者がその都度指導している。玄関の施錠はせず、利用者が外出したい時には、職員と一緒に外出したり、拠点職員が協力して見守りをするなど工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研究にて、定期的に虐待防止について学び理解を深めている。職員間で認識ができるよう務めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護においては、内部研修において理解を深めるようにしている。成年後見制度を活用されているご利用者は現在おられないが、研修にて各職員が理解できるようにしておきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際は利用者の家族等の不安や疑問点を尋ね十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や受付体制について契約時にきちんと説明し、施設玄関に明示している。日頃から利用者や家族等が意見や要望を言いやすい関係づくりに努め、苦情・相談等については速やかに対応をしている。	契約時に苦情の受付体制や処理手続き、第三者委員等について家族に説明している。毎月、家族に利用者の近況が分かるよう写真と手紙で知らせ、面会時や拠点合同で行う年2回の家族会(うち1回は書面開催)、運営推進会議参加時、電話等で意見や要望を聞いている。出された要望や意見は伝達ノートで職員が共有し、ケアに関する要望にはその都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から伝達ノートに意見や提案・要望等を誰もが自由に書けるようにしている。月1回の職員会議において、職員から自由に意見を出せる様になっている。	月1回の職員会議や朝夕の申し送り、「伝達ノート」で職員の意見や要望を聞く機会を設けている他、管理者は話しやすい雰囲気づくりに努め、日常の業務の中で意見や提案を出し合い、職員全員で検討している。管理者は必要に応じて月1回の幹部会議で報告し、職員の意見を反映させるよう取り組んでいる。介護日誌の検討を行い、記入時間の短縮につなげるなど、職員の提案や意見を運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自は向上心を持って働くよう努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月研修を行っている。年に2回法人全体の研修として外部講師による研修を実施している。	外部研修は、職員に情報を提供し、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。今年は新型コロナの影響を受け、受講がなかった。法人研修は年2回、「学びセミナー」を実施し、WebやYouTube配信を活用して受講し、研修報告書を提出している。内部研修は、拠点施設内研修として月1回、職員倫理、感染予防と対策、観察のポイント・記録の書き方、熱中症対策、身体拘束、虐待防止、権利擁護、緊急時・救急対応、事故防止、介護実技などについて、計画的に実施している。出席できなかった職員には資料を回覧している。新人研修は、職員倫理の研修として「高齢者虐待防止、身体拘束等適正化、ハラスメント防止、接遇、権利擁護等」について、マニュアルに沿って行い、日常業務の中で管理者や先輩職員から、働きながら学んでいる。資格取得の支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームとは情報交換を行ったりし、サービスの質の向上に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設の見学、入所の申し込みの段階からご本人や家族のこまりごとや要望・施設入所にあたり不安に感じておられる事柄を傾聴し等施設の特性やサービスの内容についてしっかり説明し、ご本人の安心が確保できるよう務めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の見学、入所の申し込みの段階からご本人のこまりごとや入居にあたり不安に感じておられることに耳を傾け、当施設の特性やサービス内容についてしっかりと説明し、ご本人の安心が確保できるように務めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設の見学、入所の申し込みの段階から家族のこまりごとや入居にあたり不安に感じておられることに耳を傾け、当施設の特性やサービス内容についてしっかりと説明し、ご家族のの安心が確保できるように務めている。自宅訪問を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者が暮らしを共にする家族の一員であるという意識で日々生活している。職員はご利用者から様々なことを学びご利用者には必要なケアを提供するという支え合いの関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連携を密に行い、ご利用者とご家族の絆を大切にしながら、ご家族と一緒に支援内容について考えともに支えていく関係を築けるよう築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの際、感染予防に配慮しながら実施している。ご利用者の馴染みの場所、(昔の職場・自宅周辺・思い出の地)を訪れたりしている。面会は「窓越し面会」とし、感染予防を配慮しながら可能にしている。	感染状況に配慮して、家族や知人などの窓越しの面会を支援し、年賀状や手紙、はがきや電話等での交流を支援している。利用者の馴染みの場所(自宅周辺、思い出の地)へのドライブなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士良好な人間関係でいられるようリビング等の席を工夫している。ご利用者同士が共同で行う作業等企画したり利用者同士が仲良く過ごせるよう職員も声掛けや対応を工夫している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後(当施設においては特養への移動等)これまでの関係を断ち切らないように定期的に会いに行ったり、ご家族にお会いした際には困りごとや相談に乗る等の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを伝えることのできるご利用者はしっかり傾聴しご本人の意向を大切に支援する。訴えが困難な方は、言動や表情等から思いをくみ取るように務める。	入居時の情報(生活歴、生活環境、馴染みの暮らし方等)や日頃の様子を、「ケースダイアリー」や「伝達ノート」に記録して全職員で共有し、職員間で話し合っ「私の姿と気持ちシート」にまとめ、思いや意向を把握するよう努めている。困難な場合は、本人本位に検討し、思いや意向を把握するよう努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談の際、これまでの生活歴や環境・馴染みの暮らし方等ご本人やご家族から情報収集し把握に努めている。前担当ケアマネからも情報を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人の心身状態を把握しその人に合った時間の過ごし方、有する力によってできることできないことを把握している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いや日々の様子の中での気づき・課題をケースダイアリーや伝達ノートに記録し、月1回の職員会議件ケアカンファレンスにて話し合い、意見やアイデアを出し合っている。その際には、ご家族からの意向や主治医等の意見も参考にして介護計画に繋げるようにしている。 ご家族には毎月のお手紙や電話等でご本人の様子を伝え、ご家族と連携をとり、介護経過に反映している。モニタリングは毎月実施し、6か月ごとにケアプランの見直しを行っている。利用者の状態に変化があれば、その都度見直しを行っている。	管理者と計画作成担当者が中心となって、月1回の職員会議でのケアカンファレンスやサービス担当者会議で話し合い、本人の思いや意向、家族の要望、主治医の意見などを反映した介護計画を立てている。月1回、管理者と計画作成担当者が短期目標をモニタリングし、6ヶ月に1回見直しを行っている。利用者の状態の変化に応じてその都度見直しを行って、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等はケースダイアリーに記録し、スタッフ間は伝達ノートに気づきや情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々状態に応じて柔軟で多様な支援方法をスタッフ間で検討し取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人を支えている地域資源を把握し ご本人が安心して穏やかに暮らを楽しむことができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人・ご家族希望のかかりつけ医となるようご家族とよく話し合い支援している。</p> <p>往診して下さるかかりつけ医が多くなってきた。往診により、スタッフ全員が医師と顔なじみになり、一層連携が取りやすくなった。</p>	<p>本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医とし、協力医療機関をかかりつけ医とする人には週1回、その他のかかりつけ医は必要に応じて訪問診療がある。他科受診は家族の協力を得たり、本人の状況に応じて事業所が受診支援をしている。受診結果は家族に月1回のお知らせや電話で報告し、職員間では「伝達ノート」で情報を共有している。緊急時や夜間は協力医療機関と連携して、拠点の医務室や看護師の助言を受けて、適切な医療が受けられるように支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常的なかかわりの中でとらえた情報や気づきを、同施設内の看護師に伝え相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>		
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は文書にて情報提供を行っている。退院された方は病院から看護サマリとして文書にて情報提供を受けている。往診に来られる医師に付き添われる看護師とはかかわりも多く、連携が取りやすくなっている。</p>		
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>日常のかかわりの中でとらえた情報や気づきを同施設内の看護師に伝え相談し、個々のご利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>契約時に、事業所でする対応について、移設や看取りを含めて説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から、かかりつけ医や拠点施設の看護師の意見を聞いて家族と話し合い、職員も方針を共有してチームで支援に取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて研修をおこなっている。実際に急変が起こった際はその都度話し合い、必要な対応を実践的に学ぶようになっている。	事例が生じた場合はその日の職員で話し合い、事故・ヒヤリハット報告書を作成し、「伝達ノート」にコピーを添付して全職員に回覧している。職員会議で再検討し、対応策を介護計画に反映させて、一人ひとりに合わせた事故防止に取り組んでいる。幹部会議で報告し、必要に応じて拠点の事故防止委員会で検討している。拠点事業所合同で年2回、元消防隊員(救急救命士)から緊急時の対応やAED、心肺蘇生実技の指導を受けている。内部研修で年2回、事故防止について学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の充実
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害、地震等昼夜を問わず利用者が避難できるよう施設全体で訓練を行っている。地域との協力体制、法人全体としての協力体制は整っている。	防災マニュアルがあり、年4回(防災訓練2回、消防・防災訓練2回)、拠点施設合同で昼夜を想定した訓練(通報、消火、避難誘導、防災設備の点検)を利用者も参加して行っている。家族や地域の人に訓練への参加案内をしたり、消防署の協力を得たりしていたが、コロナ禍のため中止している。法人他施設との協力関係はあるが、地域との協力体制を築くには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。職員同士がその都度お互いを注意し合っている。	職員は内部研修で年2回学び、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になることがあるれば、その都度、管理者が注意したり、職員同士で話し合っている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人が思いや希望を言いやすい環境や人間関係の構築、自己決定できるよう務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースやその日の体調、思いを大切に、希望にそった支援を心がけている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意思で衣服等選べるよう支援し、化粧等おしゃれが自由にできる環境を整えている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の食べやすい大きさにしたり、ご利用者と一緒におやつづくりをしたりと、作って食べて楽しめるよう配慮している。配膳やおぼん拭き、片付け等ご利用者ができることをされている。職員と協力関係にある。	朝食と日曜日の食事は、利用者の好みを参考に献立を立て、事業所で調理している。月曜日から土曜日の昼食と夕食は、法人の配食を利用している。利用者は職員と一緒に食事のメニュー書き、配膳、おぼん拭き、片付けなど、できることを行っている。お誕生日食(寿司など本人が好きなもの)や、季節の行事食(節分、ひな祭り、唯心花祭り、納涼祭、敬老祝賀会、バーベキュー、忘年お楽しみ会)、おやつ作り(ケーキ、プリン、フルーツポンチ、ホットケーキなど)、ドライブでの外食、月1回程度のテイクアウト弁当、好みの飲み物など、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・食事の状態等毎回観察記録し、食が細く量的に少ない時は栄養補助職員を提供している。水分摂取は毎食後・入浴後・10時・15時・19時にティータイムとして提供し、体重の管理も行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人に応じた口腔ケア支援(入歯洗浄・歯磨き・うがい等)を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの身体状況や排泄のパターン・習慣を把握し、トイレでの排泄を心がけている。ご本人の自尊心を大切に誘導のタイミングを配慮している。	排泄チェック表でパターンを把握し、自尊心や羞恥心を損なわぬよう、一人ひとりに合わせた声かけや誘導を行って、トイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態をチェックし記録している。毎日の体操のマッサージ、飲食物の工夫等便秘予防に務めている。便秘がひどい時は医師に相談している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望や身体状況に応じて、入浴をゆったり、くつろぎ楽しめるよう心がけている。清拭や部分浴等の対応も臨機応変に行っている。	入浴は毎日可能で、時間は特に決めず利用者の希望やタイミングに合わせて週2回から3回、入浴できるよう支援している。入浴したくない人には無理強いをせず、声かけを工夫するなどしている。入浴しない日は足浴や部分浴、清拭等の対応をしている。職員との会話や歌を歌うことを楽しんだり、季節の柚子湯、入浴後の保湿剤の利用など、一人ひとりが入浴を楽しめるように支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの心身の状況、生活習慣を把握し、無理なく休息したり、安心して気持ちよく眠れる様支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイルで管理しており、スタッフは必ず目を通して確認している。誤薬等ないようにスタッフ間でダブルチェックを行っている。その人に応じた服薬支援と症状変化の確認にも努めている。状態により医師に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の特技を生活の中で役割として活用できるよう環境を整えることでその人の生きがいに繋がっている。一人ひとりの生活歴を把握し、できること、好み等見出し、レクリエーションや作業に生かすことで本人にとって張り合いや楽しみに繋がっている。気の合う利用者同士でコミュニケーションが摂れる様環境を整えることも、会話を楽しめることに繋がっている。	季節の行事(初釜の会、節分、ひな祭り、唯心花祭り、納涼祭、敬老祝賀会、忘年お楽しみ会など)、お誕生日会、僧侶による法話、新聞や雑誌を読む、本の読み聞かせ、テレビやラジオの視聴、DVD鑑賞、歌を歌う、カラオケ、脳トレ、パズル、連想ゲーム、季節の壁面飾り作り(花火大会の切絵、鯉のぼり等)、折り紙、ちぎり絵、貼り絵、ぬり絵、リハビリ体操、椅子体操、風船バレー、歌える体操、椅子体操、ラジオ体操、リズム体操、口腔体操、ストレッチ、風船バレー、ボーリング、輪投げ、花壇に花を植える、畑づくり(ミニトマト等)、プランターや花壇の水やりや草取り、食事のメニュー書き、調理の準備や片付け、おやつづくり、雑巾縫い、新聞折り、ウエス作り、洗濯物干し、洗濯物たたみ、居室の掃除、移動美容室の利用等、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそって、散歩やドライブ等戸外に出かけられるよう支援に務めている。	外出ドライブで紅葉狩り(大寧寺)や花見に出かけている。事業所周辺の散歩、畑づくり、花壇やプランターの水やり、草取りなど、戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、また家族の意向を確認したうえで、ご本人がお金を所持したり、使えるよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望にて自由にご家族に電話できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間が、ご利用者にとって不快や混乱を招く事がないよう配慮している。季節に合った生け花や作品を展示したり、行事やお出かけ等思い出の写真を掲示している。喚起や室温調整もしっかり行い、居心地よく過ごせるよう務めている。	居間兼食堂の入り口には利用者の生け花作品を飾り、食卓や洗面所などには差し入れの季節の花を飾っている。窓からは陽が差し込み、利用者が育てている畑が見える。壁には貼り絵や折り紙、ちぎり絵など季節ごとの利用者の作品を飾り、季節や親しみを感じられるようにしている。台所からは調理の音や匂いがしてきて、家庭的な雰囲気がある。食卓やテレビの前にソファを置き、広い廊下にもソファを設置するなどして、利用者は思い思いにくつろぐことができる。温度や湿度、喚気に配慮し、居心地よく過ごすことができるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者同士が互いの居室を自由に行き来したり、一人でゆっくり休みたい時は、静かに過ごせる居室へ誘導する等配慮している。共有のフロアやソファも利用者の関係性を把握し、居心地よく過ごせるよう配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを自由に持ち込んで頂き、心地よく過ごせるように工夫している。	ベット、棚、机、椅子、衣装かけ、テレビ、カセットラジオ、回転椅子、位牌、遺影、仏壇、時計、衣類、日用品など使い慣れたものを持ち込み、家族の写真、ぬいぐるみ、本人の作品などを飾って、居心地の良い空間を作っている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室やトイレの場所がわからない方が迷わず行動できるように、わかりやすい名札を表示している。建物内で安全に暮らせるように歩行時に障害になるものがないか注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

2. 目標達成計画

事業所名認知症対応型グループホームゆいしん

作成日：令和4年5月23日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	50	○日常的な外出支援 新型コロナウイルスの影響もあり、外出は自粛傾向にあったが、感染予防に気をつかいながら秋に紅葉狩り、春には桜の花見を思い切って決行した。不安があったが、ご利用者は大変喜ばれた。またご利用者個人においても精神不安定な時自宅近辺のドライブで精神が落ち着かれた経緯があった。外出により地域との交流も出きた為、今後は感染予防に気をつかうのはもちろんのこと、もう少しドライブ等外出の機会を増やしていきたい。	ドライブ等の外出はご利用者にとって解放感と気分転換に繋がり、地域との交流のきっかけにも繋がると思われる。ご利用者の楽しみは心身の活性化に繋がり、また精神の安定にも繋がるため、団体・個人を含め、ご利用者の希望を取り入れながら、また感染予防に努めながら、昨年よりもできるだけ多く取り入れていきたい。	①ご利用者の意向を取り入れる。 ②外出場所の情報収集をする。 （ご家族からの情報や意向も取り入れる。） ③ウイルス等の感染予防対策をきちんと行う。 ④外出は個別や団体（全員又は数人ずつの交代）にする等内容や状況に応じて柔軟に対応や計画実施を行う。 ⑤常に安全を配慮し、緊急時対応も視野に入れて計画する。	12か月
2	9	○権利擁護に関する制度の理解と活用 権利擁護においては内部研修にて理解を深める様にしているが、関連して成年後見制度の理解が不十分のように感じる。現在成年後見制度を活用されているご利用者はおられないが、今後研修にて理解を深めてきたい。	成年後見制度を各職員が理解を深めていき、今後何らかの形で成年後見制度を利用されるご利用がいても落ち着いてスムーズに対応できるように学んでおく。	成年後見制度の研修を内部研修に取り入れる。研修の内容を各職員が理解できるようにし、研修に何らかの都合で出席できなかった職員に対しても研修内容が理解できるよう回覧を徹底する。	12か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。